

みんなのた場

サークル仲間¹⁷²

空手道稲井教室

技を磨いて礼儀も習得
初々しく突きに蹴り

稲井公民館で毎週土曜日の午後1時30分から2時間ほど、未就学児から中学生まで十数人が空手道の稽古に汗を流しています。日本空手協会石巻支部長の鈴木道男さん(七段)を代表者として、4月に「空手道稲井教室」として正式に利用団体登録されました。

昨年10月に同公民館が開いた講座で空手を体験し、通い始めた子どもたちがほとんどです。当時から引き続き、鈴木さんら有段者が指導しています。

夏休み中は8月末の昇級

審査を目指し、年代で分かれて突きや蹴りの練習を繰り返しました。空手道場に通っている小学生も交じっていますが、それ以外は習い始めて1年未満。空手の技を磨く以上に、あいさつや脱いだ靴をそろえるといった礼儀作法を身に付けることを大事にしています。

誕生日が来て6歳になる最年少の及川楓さんは「蹴りとか楽しい」と無邪気。同じ年代の櫛濱啓介さんは「お母さんに連れて来られた」と言いながらも、張りきっていました。「なよな

よせず、気持ちが強い子になってほしい」という願いを込め、子どもを通わせる親が多いようです。

誘われて空手を始めた堀内彩羽さん(小学5年)は「上手になって黒帯がほしい」と目標を立てて精進していました。最も遅く中学1年で門をたたいた志賀琉皇叶さんは、別の行事で偶然、席が隣り合った鈴木さんに声をかけられたのがきっかけ。「昇級審査で上がれるよう頑張りたい」と懸命に指導陣の動きをまねていた。

気持ちがあれば体一つでできるのが空手。無料の体験を随時受け付けており、初めのうちは胴着も借りることが出来ます。よりよい環境で稽古ができるよう努める鈴木さんは「教室を通じて、さまざまなことへの学びと親子の絆を深め、将来の人格形成につなげていけるように応援したい」と話していました。



代表の鈴木さんと小中学生たち



毎週の練習でめきめき上達しています

きらり★まきっこ³⁰

柔道で兄に負けない成績を

おわぬま きよ 大沼 陽さん(桃生中学校3年)

4兄弟の末っ子で、3人の兄の影響で物心ついた頃から道着を着て遊んでいました。本格的に柔道を始めたのは小学1年の頃です。兄たちが東北や全国で結果を残しているの、自分もそこに並びたいと続けてきました。

負けず嫌いなので、部活動と地元の道場だけでなく、市外の道場にも通って練習してきました。大外刈りが得意です。昨年は県中総体の50kg級で優勝し、東北大会でベスト8になりました。今年の地区大会は2階級上げた60kg級で出場しました。自分の柔道をすれば勝てると信じ、技の種類を増やしたこともあってオール一本勝ちで1位になることができました。

柔道は自分が納得できる結果を残すまで続けますが、将来のために大会が終わったら勉強も頑張ります。



市報いしのまき 第337号 令和8年9月1日発行
発行 石巻市総務部秘書広報課 ☎0225-95-1111 FAX23-4340
〒986-8501 宮城県石巻市穀町14-1

編集/制作 (株)石巻日日新聞社
古紙/パルプ配合の再生紙と環境に優しい植物油インキを使用しています。再生紙としてリサイクルできます。「ごつがみ類」として分別してください。

住民基本台帳による石巻市の人口と世帯数(前年比)			
令和8年7月末現在	人 口	128,689人	(▲2,167)
	世帯数	62,504世帯	(▲2)